

ふるさと探訪

第35回 高知 八幡神社



地区内を回る獅子舞 (上)
蛍が乱舞する水路 (下) ▲
神社境内に咲いた見事な
つつじ群 ▲
つつじが岡の
高知八幡神社の社殿 ▶

高知八幡神社は、古くは井河八幡と称されていました。康平6(1063)年源頼義が伊予守となり河内八幡と称し、寛永年間に現社号に改められました。代々の藩主の崇敬も厚く、祈雨祈晴五穀成就の祈願も度々あったようです。

高知八幡神社には、高く長い石段があり、上り詰めると拝殿の正面に出ます。拝殿の南東の隅から拝殿裏の参道には、神社の歴史を物語る市指定の天然記念物である「ツツジ群」があります。高知八幡神社のあるこの丘は、古くより「つつじが岡」と呼ばれていました。古記によると胴回り60^セ余り、高さが7^セ余りと記されており、昭和初期の調査でも最高根回り約50^セ、樹

高約5^セに達するものがあつたと記録されています。このつつじ群は昭和62年10月1日に旧丹原町で文化財の指定を受けたものです。

春には見事なつつじの大木に綺麗な花が咲き誇り、夏には蛍が飛び交い、秋には獅子舞が地区内を巡る高知八幡神社の一带は、のどかな田園風景が一望できる閑静な地域です。

■住所 丹原町高知甲729
■駐車場 あり(無料)

